

議 事 の 要 旨

1 開 会

2 議 題

(1) 会長及び副会長の選出について

委員互選により、梅澤委員を会長、内田委員を副会長に選出した。

(2) 部会委員の選出について

会長案について、全員賛成で案のとおり決定した。

(3) 在宅医療・介護連携推進事業の今後の取組について

事務局より資料に基づき、説明した。

(水上委員) MCSの申し込みをした事業所は市で公開する予定か。

一般市民が介護・在宅医療を受ける際に、事業所がツールを活用していることがわかる。一方で、医師会や介護事業所の各種団体の方が委員として参加されていると思うが、訪問診療を行っているクリニックでも医師会への加入の有無、ケアマネジャーは介護支援専門員の会への加入の有無等、色々な所属先がある場合とない場合がある。医療・介護連携を進めていくにあたっては、各種の団体がこれだけ市の会議に参加しているので、そういった団体に所属（加入）し、市と一体となって政策を進めていくことが必要と思う。例えば事業所を公開するにあたり、所属団体も併せて公開できれば、入っていない事業所や医療機関の団体加入促進も期待できると思う。任意団体なので強制ではないが、組織が大きくなって市と一体になって活動していくことが重要と考える。

(事務局) 市としてどのような形で市 HP 等で公開していくのか、所属団体を併せて周知することについても含めて検討する。

(梅澤会長) 訪問診療に関しては、診療圏が非常に広いため、相模原市医師会には入っていないが、八王子市医師会に入っていて相模原の在宅医療に絡んでいるような場合、そのような方の加入条件についてもこれから規程なりを設けていく必要が有ると考えているか。

(水上委員) 有料老人ホームをはじめ、施設の訪問診療は市外の医療機関が入っていて、これはあくまで感覚だが、夜間の往診等対応せず、安易に救急搬送を依頼している現実があると思う。搬送先で主治医を確認した時に、市外や医師会に入っていないクリニックも多いと思う。そういったことも記載されていると、往診や介護の相談で現地に来

- てくれる事業者なのかなど参考になるのではないかと考えている。
- (澤田委員) MCS の運用方針について、どの程度強制力があるのか。すぐに連携が必要な場合だと、如何に早く情報共有をするかという場合もあるが、今までのやり方が認められなくなるのか。
- 情報共有については、薬局や医療機関は個人情報に関して説明をして同意を得ている。その中で MCS に限らず FAX や郵送など色々な手段がある中で MCS に限り同意を得るのは、使いづらくなってしまっているのではないかと心配である。
- (廣瀬委員) 市が管理する多職種連携グループに入りませんかということが1つ柱であり、もう1つはこれを推奨することにより、MCS を利用する事業者が増える。利用する事業者が増えると、それだけ MCS を利用した各々の情報共有が進みやすくなるということで市として推奨しているという理解でよいか。
- (事務局) 市がグループを管理するのは、研修等の内容をお伝えするなどの情報共有を目的としたものである。個々の患者グループについては、それぞれの事業所の同意のもとで使っていただくことを想定している。現状、様々なツールがあるが、それを否定するものではなく、連携ツールのひとつとして、各事業所の判断で利用してもらうことを考えている。市としてはあくまで「推奨」をしたいと考えている。
- (廣瀬委員) グループの管理者が一斉メールで招待したい人を呼べるが、その際にアドレスを誤る危険性が有る。そうすると、招くべきでない人を招いてしまうリスクがある。相互で確認をするなど、管理者が法の責任を問われないように考えた方が良いと思う。
- (澤田委員) 運用方針を見ると、まじめな方はこのとおりにやらないといけないと捉えてしまうと思われる。「個人情報の取扱いには十分注意すること」や、「望ましい」など、もう少し柔らかい表現にしなければ利用を躊躇ってしまう方も出てきてしまうのではないかと思う。
- (小林委員) MCS で個人の支援グループを作る場合もあるとのことだが、その際にご本人が入る前提なのか、関係機関だけでやり取りする前提なのか。
- (事務局) MCS は本人を含めた形と、含めない形での情報共有が可能なので、個々の状況に応じて判断して頂く形となる。
- (小林委員) 障害分野だとご本人を含め、どれだけご本人に介在していただけるかが課題と感じた。

(4) 誤嚥性肺炎に係るリーフレットの作成について

事務局より資料に基づき、説明した。

(廣瀬委員) 病院協会が昨年からは進めているひとつの取組として、二次救急医療が大変な状況で必要な患者を瞬時に受け入れできない中で対策を検討しており、今回誤嚥性肺炎をテーマとしているが、高齢者救急全般について、救急医療から後方支援病院への転院を円滑にしていくことのご理解をいただくための活動になる。医師会や関係各所へ説明をしてきたが、今回市民向けにも活動の周知をするためのリーフレットになる。市民への啓もうについても、病院協会が主体となって説明したいと考えている。内容については、誤嚥性肺炎になった際、どのような流れで医療機関をめぐるのか、肺炎になる前にどういったことをしておくか、わかりやすく表現したい。

(梅澤会長) 7月19日までに意見をとのことだが、改めて委員にメールで配信するか。

(事務局) 改めてメールを配信するので、ご意見があればメールへの返信で回答をお願いしたい。

(水上委員) 高齢者救急は病院勤務の皆様はととても大変な中で勤務されていると思う。今回の取組が不要な救急受診の抑制につながれば良いが、救急の患者が受け入れられないことは解消していかなければならない。本来救急患者は診療所やメディカルセンターで止めるのではなく、二次救急病院や高度の医療センターに搬送すべきであり、それを抑制するものではないと思う。こうしたことを市民へ啓発するとともに、初期治療は急性期でしっかり受け、翌日には二次救急に転送、1週間以内に在宅や施設への流れを、施設の空き状況や在宅医療の状況を一体化してオンラインで情報共有できるような形で対応ができるとよい。病院協会と医師会の病診連携をはじめ、介護事業所等も含め、包括的な病院から在宅、施設までの流れを数年以内に形にできればと考えている。

(佐藤委員) 誤嚥性肺炎の予防の観点からの啓発も必要と思う。市が発行している他の冊子もあるので、このリーフレットと他の冊子が繋がるような形で、予防の観点も含めた形にできると良いと思う。

(5) 在宅医療・介護連携事例等発表会について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑・意見なし。多数決とし、テーマ2に決定。

(梅澤会長) 開催日については発表者を決めた上で、候補の10月19日又は26日のどちらかに決定することとしたい。

3 報告事項

(1) アウトリーチ事例検討会について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(2) 在宅医療・介護連携講演会について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(3) 県央5市在宅医療・介護連携推進事業情報交換会について

事務局より説明した。

※質疑、意見なし

(4) その他

田中委員より、相模原市歯科医師会が実施している「訪問歯科事業」「要介護高齢者等歯科診療事業」について説明。

(廣瀬委員) 在宅の患者で、訪問歯科で嚥下を診ていただいている方がいる。訪問歯科のニーズを改めて感じた。議題の中でMCSの話があったが、訪問診療にいくつかのチームが出ている中で、MCSで対応の可否を募ると、誰かが行けたりする。そういった共通のツールがあると、個別に探すよりも解決することもあるかもしれない。共通ツールを皆が使っていることが土台になる。

5 閉 会

以 上

相模原市在宅医療・介護連携推進会議委員出欠席名簿（別紙）

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	阿部 徳子	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		出席
2	伊藤 憲秀	地域包括支援センター（中央区）		出席
3	内田 善久	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	副会長	出席
4	梅澤 慎一	一般社団法人相模原市医師会	会長	出席
5	遠藤 亮裕	地域包括支援センター（緑区）		欠席
6	菊地 歳光	相模原市ホームヘルパー協会		出席
7	小林 麻衣子	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団		出席
8	小山 仁	地域包括支援センター（南区）		出席
9	斉藤 正和	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
10	佐藤 隼	相模原地区訪問リハビリテーション連絡会		出席
11	澤田 弘之	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
12	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会		出席
13	下井 麻紀子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
14	杉谷 雅人	相模原市認知症疾患医療センター（連携型）		欠席
15	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
16	土田 陽子	さがみはら介護支援専門員の会		出席
17	中野 太郎	公益社団法人相模原市病院協会		出席
18	中村 準	相模原市認知症高齢者グループホーム連絡会		出席
19	久松 信夫	学識経験者（桜美林大学）		欠席
20	日高 明夫	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
21	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		出席
22	松岡 義人	相模原市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会		出席
23	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会		出席

（敬称略、50音順）